東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

比較読み教材を活用した知を統合する探究的単元の開発と実践：検証編

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 東京学芸大学附属学校研究会 公開日: 2024-09-20 キーワード (Ja): ETYP:教育実践, STYP:高等学校, SSUB:国語 キーワード (En):
	作成者: 杉本, 紀子, 千田, 洋幸, 浅井, 悦代, 宇佐見, 尚, 高松, 美紀, 西村, 諭, 廣瀬, 充, 山根, 正博, 若宮, 知佐, 横田, 哲, 影山, 諒, 小岩井, 僚, 柴田, 美月 メールアドレス: 所属: 東京学芸大学附属国際中等教育学校, 東京学芸大学, 東京学芸大学附属国際中等教育学校, 東京学芸大学附属国際中等教育学校, 東京学芸大学附属国際中等教育学校, 東京学芸大学附属国際中等教育学校, 東京学芸大学附属国際中等教育学校, 東京学芸大学附属国際中等教育学校, 東京学芸大学附属高等学校, 高知県立高知国際高等学校, 横浜市立東高等学校, ドルトン東京学園, 広島県立広島叡智学園中学校高等学校
URL	https://doi.org/10.50889/0002000671

比較読み教材を活用した知を統合する探究的単元の開発と実践―検証編

研究代表者　東京学芸大学附属国際中等教育学校
杉本　紀子
共同研究者　東京学芸大学　千田　洋幸
東京学芸大学附属国際中等教育学校
浅井　悦代　宇佐見　尚子　高松　美紀
西村　諭　廣瀬　充　山根　正博
東京学芸大学附属高等学校　若宮　知佐
高知県立高知国際高等学校　横田　哲
横浜市立東高等学校　影山　諒
ドルトン東京学園　小岩井　僚
広島県立広島叡智学園中学校高等学校　柴田　美月

目　　次

1．研究プロジェクトの概要…… 84
1．1　目的…… 84
1．2　令和5年度プロジェクトの目標…… 84
1．3　本研究の意義…… 84
1．4　研究の方法と計画…… 85

2．学習指導要領のねらいと「比較読み」の取り組み…… 85

3．比較読み単元の体系化の枠組み…… 89

4．令和5年度の授業実践と検証…… 90

5．今後の課題…… 91

東京学芸大学附属学校　研究紀要　第 51 集

比較読み教材を活用した知を統合する探究的単元の開発と実践―検証編

研究代表者　東京学芸大学附属国際中等教育学校
杉本　紀子
共同研究者　東京学芸大学　千田　洋幸
東京学芸大学附属国際中等教育学校
浅井　悦代　宇佐見　尚子　高松　美紀
西村　諭　廣瀬　充　山根　正博
東京学芸大学附属高等学校　若宮　知佐
高知県立高知国際高等学校　横田　哲
横浜市立東高等学校　影山　諒
ドルトン東京学園　小岩井　僚
広島県立広島叡智学園中学校高等学校　柴田　美月

１．研究プロジェクトの概要

本研究は新学習指導要領の実施に伴い，高等学校国語科において新たに求められる教材開発・単元開発の切り口を探ることを目的とし，令和3年度・令和4年度・令和5年度と継続して附属国際中等教育学校国語科を中心に大学・公立・私立校の国語科教員によって取り組んでいるものである。

１．１　目的

平成29年中学校学習指導要領および平成30年高等学校学習指導要領において掲げられている「知の統合」の具体的な姿を探り，その実現に向けて新たな教材観のもとで探究的な単元設計のあり方を提案することを目的とする。

１．２　令和５年度プロジェクトの目標

本研究は令和5年度で3年目となるが，その目的は初年度から継続している。平成29年中学校学習指導要領および平成30年高等学校学習指導要領において掲げられている「知の統合」の具体的な姿を探り，その実現に向けて新たな教材観のもとで探究的な単元を設計・実践し，その効果を検証する。1年次（令和3年度）の研究においては，月例会を開催して各自の単元案や取り組み（実践）を発表し共有するとともに，比較読み・組み合わせ教材のリスト・データベース化の基礎となる情報の収集を行った。2年次（令和4年度）はデータベースを拡張するとともに，それらの実践を通じて授業における作用・効果の検証を一部授業において行った。

１．３　本研究の意義

本研究の意義は学びにおける「知の統合」の姿を具現化し，その効果を検証するところにある。従来からも「総合的な学び」「包括的な学び」という学びのスタイルや形は提唱されているが，総合的探究の時間ではなく，具体的な教科の中で，どのような仕組みや仕掛けがその学びを支え，作用するのかを検証する余地はまだ残されていると考える。特に令和4年度から本格的に開始された高等学校国語科の新科目においては公開されている実践例も少ない。本研究を継続的に進め実践を公開していくことは，新科目の単元の在り方を探究していく手がか

りにもなる。

1年次（令和3年度）には，研究者が月例会において各自が設計した単元案を提案し，その内容について相互に意見交換を行い，具体的な授業の姿を想定するところまで行った。

2年次（令和4年度）は単元案を実践し，実際の授業においてどのような作用が起こっているかを一部の授業で検証した。1年次よりも共同研究者の範囲を少しずつ広げている。

3年次には（令和5年度）には，「比較読み単元」の効果検証に臨むとともに，前年度の報告書でも提案した「比較読み単元」の体系化を目指した枠組みの提案を行う。このような提案を公開し，研究実践の場を広く全国に広げることによって，汎用的な単元の姿や活用例をデータとして蓄積し，提案していくことが可能となると考えられる。

１．４　研究の方法と計画（当初予定を含む）

①　比較読み教材開発・単元開発の先行研究・実践調査

従来行われてきた「比較読み・比べ読み・つなげ読み」の教材・単元開発の先行事例を調査し，どのような目的・視点で教材開発や単元開発が行われてきたかを分析する。また同時に他教科（特に外国語科・社会科）における比較読みや資料比較などを活用した単元開発例や実践例を調査する。

②比較読み教材の新規開発検討

現行の教科書掲載教材に対してどのような比較教材が活用可能か，また教科書に掲載されていないテクスト（文学・非文学・視聴覚を問わない）においてどのような選択と組み合わせが可能かを定例の研究会（主としてオンライン）で提案・検討する。

③比較読み教材を活用した単元開発と実践

②において提案された教材を中心に，「概念」を基盤としてテクストを比較する活動・学習を取り入れた単元を設計・実践する。

④　③の実践を通じた効果検証

令和5年度においても，令和4年度と同様一部の実践における学習の効果を，単元の総括的評価課題，生徒の振り返り，および教員の振り返りによって検証した。効果検証した実践は，令和4年度の取り組みとは異なる科目・教材で実践したものである。

□研究と実践

・令和5年度 研究月例会実施：全4回

2023年（令和5年）12月26日・2024年（令和6年）1月7日

今年度は昨年度よりも月例会の回数を減らした。昨年度同様今年度も各自が実践するための準備や期間を確保することを優先したためである。12月・1月には，プロジェクト研究代表者杉本から「比較読み単元」の体系化の枠組みを改めて提案し，研究グループのメンバーと議論・検討を行った。

・単元案一覧表作成

Google drive 上でスプレッドシートを共有して作成 。各自のアイディアや実践を踏まえたリストを継続的に作成している。

２．学習指導要領のねらいと「比較読み」の取り組み

現行高等学校学習指導要領によって開設されたいわゆる新科目の授業が始まって2年が経った。現行の学習指導要領が複数の科目で「作品や資料を比べること」を内容の取扱いの中で掲げていることは周知のとおりであるが，ここであらためて学習指導要領内の記述を確認しておく。

〈高等学校学習指導要領 「国語科」：比べ読み・比較読みに関連した言及をしている記述　一部抜粋〉

①「現代の国語」

内容　思考力・判断力・表現力　B 読むこと（1）

イ　目的に応じて，文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら，内容や書き手の意図を解釈したり，文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに，自分の考えを深めること。

内容　思考力・判断力・表現力　B 読むこと（2）

イ　異なる形式で書かれた複数の文章や，図表等を伴う文章を読み，理解したことや解釈したことをまとめて発表したり，他の形式の文章に書き換えたりする活動。

②「言語文化」

内容　思考力・判断力・表現力　B 読むこと（1）

エ　作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ，内容の解釈を深めること。

内容　思考力・判断力・表現力　B 読むこと（2）

ウ　異なる時代に成立した随筆や小説，物語などを読み比べ，それらを比較して論じたり批評したりする活動。

③「論理国語」

内容　思考力・判断力・表現力　B 読むこと（1）

オ　関連する文章や資料を基に，書き手の立場や目的を考えながら，内容の解釈を深めること。

カ　人間，社会，自然などについて，文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて，新たな観点から自分の考えを深めること。

キ　設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に，必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。

内容　思考力・判断力・表現力　B 読むこと（2）

イ　社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を読み，それらの内容を基に，自分の考えを論述したり討論したりする活動。

エ　同じ事柄について異なる論点をもつ複数の文章を読み比べ，それらを比較して論じたり批評したりする活動。

オ　関心をもった事柄について様々な資料を調べ，その成果を発表したり報告書や短い論文などにまとめたりする活動。

「文学国語」

内容　思考力・判断力・表現力　B 読むこと（1）

ウ　他の作品と比較するなどして，文体の特徴や効果について考察すること。

キ　設定した題材に関連する複数の作品などを基に，自分のものの見方，感じ方，考え方を深めること。

内容　思考力・判断力・表現力　B 読むこと（2）

イ　作品の内容や形式に対する評価について，評論や解説を参考にしながら，論述したり討論したりする活動。

エ　演劇や映画の作品と基になった作品とを比較して，批評文や紹介文などをまとめる活動。

オ　テーマを立てて詩文を集め，アンソロジーを作成して発表し合い，互いに批評する活動。

カ　作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ，その成果を発表したり短い論文などにまとめたりする活動。

「国語表現」

内容　思考力・判断力・表現力　B書くこと（1）

ア　目的や意図に応じて，実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め，情報の組合せなどを工夫して，伝えたいことを明確にすること。

内容　思考力・判断力・表現力　B書くこと（2）

イ　文章と図表や画像などを関係付けながら，企画書や報告書などを作成する活動。

オ　設定した題材について多様な資料を集め，調べたことを整理したり話し合ったりして，自分や集団の意見を提案書などにまとめる活動。

「古典探究」

内容　思考力・判断力・表現力　A読むこと（2）

イ　同じ題材を取り上げた複数の古典の作品や文章を読み比べ，思想や感情などの共通点や相違点について論述したり発表したりする活動。

カ　古典の言葉を現代の言葉と比較し，その変遷について社会的背景と関連付けながら古典などを読み，分かったことや考えたことを短い論文などにまとめる活動。

「高等学校学習指導要領」（平成30年告示）より引用

学習指導要領の記述を概観してみても，新科目の多くで，作品を読み比べたり，複数の資料や情報を組み合わせたり（その過程で当然比べたり関連付けたりする作業が入ると想定する）することが学習内容として求められていることが分かる。学習指導要領が掲げている「比べ読み」に関連する学習活動は二つに大別できる。すなわち「読み比べて，解釈を深めるような活動」と，「複数の作品や資料・情報を組み合わせ，関連づけて解釈したり表現したりするような活動」である。しかしながらこうした活動は，その目的を明確にしておかねばならない。そうでなければ，「比較のための比較」に陥ったり，「たくさんの情報を集める」ことに終始したりしてしまう可能性があるからだ。

学習指導要領に掲げられているこうした内容を受けて，各教科書にも比べて読むためのテキストや関連付けて読む・書くための情報や資料は掲載されている。また，比べ読みの実践を公に共有しようという動きも表れている。『高校国語＜比べ読みの力＞を育む実践アイデア　思考ツールで比べる・重ねる・関連付ける』（幸田国広編著　大修館書店　2023.11）は，現在の高校での「比べ読み」の10の実践を紹介している。令和4年度の本プロジェクト報告書に掲載した稿者の実践も採録されている。この書籍では「思考ツール」をキーワードとして，生徒が比べ読みをする際に活用した比較・整理のためのフレームや授業の仕掛けも紹介しており，生徒がそれぞれの授業でどのように比べ読みの学習を進めたのかが分かるようになっている。しかし，一方で，これらの実践の姿を「なぜ比べ読みをするのか」という目的で整理してみると，比べ読みの実践の目的がかなり多様で，時にかなり多くの目的が複合的に存在していることが分かる（図1）。

科目名 ねらい・目的	比較するテキスト	テキストおよびその内容
「現代の国語」 自分の意見・考えを持ち、それを表現できる	新聞投書。異なる二つの意見を読み比べる。	A「無償で働くことの喜び」 B「ボランティアは無償でいいのか」
「現代の国語」 法令文や評論文の理解を深める	評論文・法令文 法令には法令として整備される「背景がある」。その背景に関する文章を「評論」として取り上げる。	「動的平衡としての生物多様性」（福岡伸一） 「生物多様性基本法」（平成20年法律58号）
「現代の国語」 資料の比較を通して判断の過程に自覚的になる・考えを深める。	事例集「これからの高等学校施設」（文部科学省）	授業者が選定した学校の施設（自習環境・交流の場・設備の充実度）に関する4事例
「言語文化」 同一作者の作品を読み比べて特徴と魅力を見つける	小説２点（同一作者）	「青が消える」「夜中の汽車について、あるいは物語の効用について」（村上春樹）
「言語文化」 五・七・五の日本語表現の吟味（日本語を紡ぐ課程の中で語彙力や言語感覚の向上を目指す／日本文化への誇りを抱かせる）	各種英語俳句コンテスト入賞作品	英語俳句を日本語に訳す。（その過程に語彙や表現を「比べる」という作業が入る）
「言語文化」 評論文を読み、広告を比較することで、実世界で応用できる思考力を獲得する。	評論文 広告２点	「広告都市・東京」（北田暁大）・「Lightee」広告（ライオン株式会社）・「嗽石香」（江戸時代の歯磨き粉）の宣伝コピー（平賀源内）
「論理国語」 評論文を読み比べ、主張を吟味し、筆者の主張を批判的に考える。→自らの考えも深める。	評論文２点	「紙の本はなくならない」（内田樹）・「情報化と紙の本のゆくえ」（宇野常寛）
「文学国語」（DP言語と文学） 文学理論と小説を関連付けて、近代小説の「語り」を批評する。	文学理論に関する解説書 近代小説	「テクスト分析入門」（松本和也） 「山月記」（中島敦）
「文学国語」 古典文学と翻案（アニメ）を比べ、解釈の多様性に気付き、自らの解釈を深める。	古典文学 翻案アニメ	「竹取物語」 「かぐや姫の物語」（高畑勲）
	研究者による二つの作品を比較した批評文	「走る女と忘れられた帝―『竹取物語』から「かぐや姫の物語」への継承と乖離」（中野貴文）
「古典探究」	古典文学	「武道伝来記：命とらるる人魚の海」（井原西鶴）
「主題」という概念を捉える	それを翻案した近代文学	「新釈諸国噺：人魚の海」（太宰治）

図１　『高校国語＜比べ読みの力＞を育む実践アイデア　思考ツールで比べる・重ねる・関連付ける』（大修館書店　2023.11）の実践の目的とテキスト
整理・作表は稿者による

個々の実践の目的はかなり多様であるが，本プロジェクトの目的に照らし，一定の体系化を想定して整理するという視点から眺めてみると，これらの実践の目的は学習指導要領とは別の形で二つに大別できると考えられる。すなわち「テキストそのものの理解を深める」という目的と「読解・表現のスキルを高める（獲得する）」という目的である。この視点から書籍で紹介されている実践のいくつかを再度整理してみる（図2）。

科目名 ねらい・目的	比較するテキスト	★比較の焦点 ○比べるテキストの関係性	目的の区分
「現代の国語」 自分の意見・考えを持ち、それを表現できる	新聞投書。異なる二つの意見を読み比べる。	★意見・主張 ○対立・対照的な意見	読解・表現のスキル
「現代の国語」 法令文や評論文の理解を深める	評論文・法令文 法令には法令として整備される「背景がある」。その背景に関する文章を「評論」として取り上げる。	★生物多様性 ○背景とそこから生み出されたもの	テキストそのものの理解の深化
「現代の国語」 資料の比較を通して判断の過程に自覚的になる・考えを深める。	事例集「これからの高等学校施設」（文部科学省）	★快適な学校施設 ○同一条件で評価を受ける環境についての資料	読解・表現のスキル
「言語文化」 同一作者の作品を読み比べて特徴と魅力を見つける	小説２点（同一作者）	★特徴 ○同一作家の別作品	テキストそのものの理解の深化

図２　『高校国語＜比べ読みの力＞を育む実践アイデア　思考ツールで比べる・重ねる・関連付ける』（大修館書店　2023.11）の比較の焦点と目的の区分
整理・作表は稿者による

図2に示すように，比べ読みのテキストの組み合わせ・比較の焦点は，比較することによって何を目指すかという目的と対応しているように見える。例えば対立する意見を比較し，それぞれの立場が何を根拠にしているか

をとらえ，自分の立場を明確に意識していくような学習の場合には，同じ論題に対して異なる立場（できれば対照的な立場）を取るテキストが必要であり，生徒は，対立するテキストの意見を批判的に読んでいく必要がある。もちろんそこには内容の読解の深化というプロセスもあるわけだが，目指すべきは「対照」を意識し，批判的に読むという「読解のスキル」の向上だろう。

３．比較読み単元の体系化の枠組み

前項での整理をふまえて，本研究が令和4年度の報告書で提示した，表1「令和4年度の本プロジェクトの実践例に記載された「比較・関連づけの焦点」」（図3）をあらためて見直しておく。

①　概念	・典拠と翻案：主題（主題の違いを生みだす要素）【前掲３．１】 ・創造性：創作という行為の価値【前掲３．２】 ・小説における表現技法とその効果【前掲３．3】 ・虚構（小説）と記録（ルポルタージュの違い）【前掲３．３】 ・文字と音の関係【前掲３．５】 ・意図と表現や構成との関連性【前掲３．７】 「手の象徴」―象徴は受け手に豊かなメッセージを送ることができる【前掲３．１０】
②　スキル	・批判的思考スキル（議論を形成するために関連する情報を集め、整理する）【前掲３．６】 ・言語表現の工夫・非言語表現の工夫・提示資料の工夫【前掲３．８】
③　内容・テーマ	・日常と非日常【前掲３．２】 登場人物の振舞いの描かれ方とジャンルの違い：理想的男性像【前掲３．４】 「言語」に関する評論

図３　令和4年度報告書掲載　表１　令和4年度の本プロジェクトの実践例に記載された「比較・関連づけの焦点」

令和4年度の段階では，実践例を比較・関連づけの焦点を軸として整理してはみたが，前項図2の整理の仕方をふまえると，図3の段階ではまだ比較読みの目的と比較・関連づけの焦点が混在していたことが分かる。

前項で述べたように，テキストの組み合わせ・比較の焦点・比較読みの目的は，連動していると言える。よって比較読み単元を体系化していくための枠組みは以下のように整理できるのではないかと考える。

１）「比べ読み」の目的・ねらいの分類

・内容理解の深化・広がり（概念的な理解／テキストに没入したテキスト自体の深い読解）

・読解や表現のスキルの獲得

２）テキストの「比べ方・関連付け方」の分類

・「比較」（対照や類似等を見出す，あるいはそれを前提として比較する。）

・「つなげる」（関連させる。ある事象を多面的・多角的にとらえるために複数の情報や資料をつなげる。）

・「重ねる」（比べることに加え，時間や空間を超えて情報を重層的に扱う。典拠と翻案などの関係や背景と事象の関係をテキストを重ねて読むことで確認する。）

これら1）・2）の分類に対して，それぞれテキストが対応していくことになるが，どのようなテキストがどの枠組みにふさわしいかは，そのテキストを授業者がどのように扱うかによって変わってくるため，ここでは固定的に提示することはできない。ただし本研究の令和3年度報告書で千田洋幸氏は比較読み教材の区分案を以下のように提示している。

◯プレテクスト：テクストに対し時間的に先行し，明瞭な影響関係（引用／被引用）を持つテクスト。

◯メタテクスト：テクストに対して時間的に後行し，明瞭な影響関係（引用／被引用，再構成，オマージュ，批判などの存在）を持つテクスト。また，テクストについて語るテクスト。

◯サブテクスト：（広義には上記二つも含む）テクストと内容・形式・表現上の関連が見いだされたテクス

ト。直接的な影響関係が無くても，授業者の教材解釈，授業方略しだいであらゆるテクストが召喚されうる。

ただし，これは比較読みの観点の一部しかフォローできておらず，個別教師のその時々の実践のみで消滅してしまいやすい教材開発の試みには，未だ理論化・体系化・系統化の困難がつきまとっている。今後，比較読みに資する教材開発，並びに授業実践の集団的蓄積と継承（データベース化）が，さらに一層推し進められなければならないだろう。

もちろん千田氏が述べるように，全てのテキストが上記の三分類に入るわけではない。しかし，比較読み単元を前掲1）・2）の枠組みで分類していくとき，そこで使用されたテキストがどのような性格のものであるのかを一定のルールに基づいてラベリングしていくことは，テキストの性格を客観的に分析するだけでなく，どのようなねらいにどのようなテキストが応じているのかを授業者が認識できることにもつながるはずだ。

以上のことを踏まえ，今年度の研究成果として，比較読み単元の体系化のための枠組みを次のようなモデルで示しておきたい。

単元の目的	比較読みの目的 （ねらい）	比較・関連づけの仕方	比較・関連づけの焦点	使用するテキスト
※比較読み自体の目的ではなく，それを含めた単元の目的。比較読みの目的と同一になる場合もある。	①内容読解の深化 A　概念的理解 B　テキスト自体のより深い理解 ②読解・表現のスキルの獲得・向上	Ⅰ　比べる Ⅱ　つなげる Ⅲ　重ねる ※複数の方法を用いる可能性もあるただし，比較読みの目的と対応している必要がある。	（1）テーマやトピック （2）作家 （3）時代 ※この焦点は他にも様々あり得る。	※千田氏が掲げたようなラベリングをテキストに対して行うことで，目的と対応したテキスト選定ができるようになる可能性がある。

こうした枠組みを作成してみて気づくのは，分類のための項目自体が，生徒が学びを転移・統合していくための焦点になりえるということだ。たとえば比較読みの目的やねらい，特に概念的理解やスキルの向上・獲得は，テキストの内容を脱した学びをねらいとしているために，それ自体が別の単元や別の科目の学びに応用されていく可能性がある。また，比較，関連付けの仕方は，生徒自身にテキストをどう活用し，そこから得た情報や知識をどのように再構築していくのかを学ばせることにつながっている。そうであるならば，授業者が比較読み単元を体系的に整理・設計することは，生徒の知の統合の仕組み自体を作るということでもあるのではないだろうか。

当初の目標の一つを，比較読み単元の体系化に置いていた点から考えると，3年間の研究を経て体系化のための枠組みを提示するにとどまってしまっているのは残念ではある。しかし，従来中高の国語科で継続的に行われ，星の数ほどあるはずの比較読みの実践を整理できる枠組み案にたどり着いたのは一定の成果であると考える。

４．令和５年度の授業実践と検証

以下に掲げるのは令和5年度に研究グループメンバーが実践した単元および設計した単元の例である。今年度は前項で提案した比較読み単元の体系化の枠組みを使用して単元の情報を整理して示す。

４．１　単元名　実社会と言語「構造と文脈」（対象　本校4年生：高校1年生）

科目名・学年	現代の国語・4年
単元名	実社会と言語「構造と文脈」
時間数	7時間（内2学期段階で事前に2時間程度前提となる学習をしている）
授業者（発案者）	杉本　紀子（東京学芸大学附属国際中等教育学校）
テキスト	履歴書・大学出願要項・憲法前文と条文（一部）・ハンセン病関連法案
比較・関連付けの焦点	概念：形式・文脈
比較の仕方	重ねる
比較読みのねらい	法令や条例文といった「規則」の構造的・形式的な共通点を見出す。またそれらが自分たちの社会や生活にどのように（どのような働きをもって）影響を与えるかを考える。
単元の目的	◆形式や構造がもつ影響力を理解する 実社会において，我々は日々形式に則った表現を読んだり，形式に沿って記載することを求められている。しかし，意識的にその形式を見れば，形式そのものにすでにそれを発信したり求めたりする側の意図（目的・背景）が読み取れる。そして受け手である我々はその形式を通して発信者側の目的や意図を読み取り，それに影響を受けている。また，実社会において一定の形式・構造で表現されるものに「ルール」がある。日常の些細なルールから社会の基盤となる憲法まで，近代法治国家の人々の生活はあらゆるルールに囲まれていると言ってよい。しかしながら，日常的にはそれらのルールは「正しいもの」と受け取られ，批判的に語られることが少ない。故にルールそのものが間違っているような場合にはそれが負の影響を社会にもたらすことがありうる。本単元では，形式や構造（それを支える表現を含む）の文脈を読み解き，それらが持つ影響力や危うさに迫ることをねらいとする。
授業の概要	１　形式に隠れた文脈を知る（履歴書を書く・大学入試要項の情報を整理する） ２・３　法律の文脈を知る（日本国憲法前文・条文／学校教育法条文　の抜粋を読む）（身近なルール「校則」について考える） ４　法律の過ちについて知る（ハンセン病について知る） ５・６　法律が持つ文脈と問題をとらえる（ハンセン病関連の法律（抜粋）を読む）（2024年1月末現在） ７　探究テーマの検証
＊評価：総括的評価（方法・観点等）	授業内でレポート作成。「探究テーマについて，ハンセン病問題を題材に具体的に解説する」 制限時間50分　字数制限なし。 持ち込み可。辞書・授業内で使用したプリント・テキスト。 観点は，IBDP の観点に準じて本校独自に定めている4観点（規準 A　分析／規準 D　言語の使用）・各8点。
授業の成果・課題（2024年1月末現在進行中のため，現時点での成果・課題）	成果 生徒は複数の異なる法文や条例，規則といった所謂「ルール」を比較することで，ルールには背景や目的（文脈）があること，それはその条文がどのような語句を選択しているかや，どのような順序で述べようとしているかに反映されていることを理解している。 また，「ルール」というものの形式・構造的な共通点に気付くとともに，条文が持つ曖昧さが生む問題点やルールを使用する社会のあり方（社会的文脈）との関連性も視野に入れて意見を述べる生徒もいる。 法文は公民科の科目「公共」との関連づけも考えられる，また「ハンセン病問題」については保健で学習した事項でもあり，既習事項を生かせている。 課題

網掛けは「３．比較読み単元の体系化の枠組み」で提案した項目

５．今後の課題

本研究は附属学校プロジェクト研究としては，令和5年度で終了する。ただし，これまで3年間の研究の成果としての「比較読み単元の体系化の枠組み」に沿ってこれまでの実践を整理し，「比較読み単元」の体系の一例として今後公開していく予定である。さらに新カリの「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」の実践が増えていくことを鑑み，こうした科目での実践を研究チームとして積み重ね，体系化された単元アイディア集として他校の先生方と共有していくことを目指す。

（文責　杉本）

参考文献

1.『高校国語＜比べ読みの力＞を育む実践アイデア　思考ツールで比べる・重ねる・関連付ける』幸田国広編著（大修館書店　2023年11月）

2.「比較読み教材を活用した知を統合する探究的単元の開発：実践論」研究代表者　杉本紀子「東京学芸大学附属学校研究紀要」第50集　2023年８月